

【山崎名誉主 宰の俳句】

ひさびさに

山崎 聰

黄塵の草加越谷みちのくへ
きっかけは春の小径をもう少し
待ちたまえ藤の花房消えるまで
大川の橋をわたってはりえんじゅ
きょうからは部屋を明るく濃紫陽花
ひさびさに会えば楽しく夏の霧
誰からも相手にされない青蛙
気にすれば気になる話初夏の月
夏至の空眺めて山の高いところ
落葉みちその先たしかに濡れている